

えだまめの安定生産のポイント ～干ばつ、豪雨に負けない栽培管理～



- 根が浅く、土壌の乾燥や過湿に弱いため、
- 水はけが良く、かん水できるほ場を選定する！
- 開花期前後～莢肥大期は水分が多く必要なため、干ばつ時はかん水する！



1 根張りの確保対策

(1) ほ場選定 (詳細は、裏面参照)

- ・ 水はけが良く、落水口や排水路、本暗渠が整備されているほ場を選ぶ。



目安：24時間以内に土壌表面(畝間の通路)の雨水が排水されること

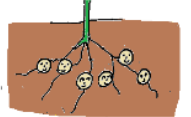
(2) 土壌改良

- ・ 石灰を投入し、土壌 pH を上げる。適正 pH：6.0～6.5
- ・ 緑肥(ソルガム等)や完熟堆肥(2t/10a)等の有機物を投入し、排水や根張りを良くする。

排水が悪いほ場は
選ばないでね



隣接する水田から水が漏水



pHは、根粒菌の着生も左右するよ

(3) ほ場づくりのタイミング

- ・ 土壌が適度に乾燥したタイミングで耕耘し、土の塊を細かくする。



砕土率を高くしよう！

土壌の乾燥の目安

目標含水比 30～35%
になるまで乾燥



土塊を手で押すと崩れるくらいが乾燥の目安です

目安：土塊 2 cm 以下の割合が 70% 以上



2 かん水対策

(1) 水が必要な時期



- ・ 開花期前後から莢肥大期は、水分要求量が最も高まる。



過湿だと土が練れてしまい大きな土塊になってしまう

(2) かん水の目安

- 7日以上、降雨がない時
- 水田転換畑では、暗渠の排水口から排水が見られない時
- 日中に観察し、葉が立ち、ほ場の半分以上の葉で裏側が見えるようになった時

水分の要水量は水稻より多いよ



葉が立つ



ほ場全体に、葉の裏面が見える (R7年7月、えだまめ)

夏場に晴天が2週間以上続くと、ほ場全体の葉裏が見える。
こうなると手遅れ・・・



(3) かん水のタイミング、方法

- 朝夕の涼しい時間帯に実施する。
- かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水する。



ほ場に水が長時間停滞しないように！



(4)かん水手法

□ 畝間かん水（地表かん水）

- ・ 畝間が濡れる程度に、畝間に水を流す。

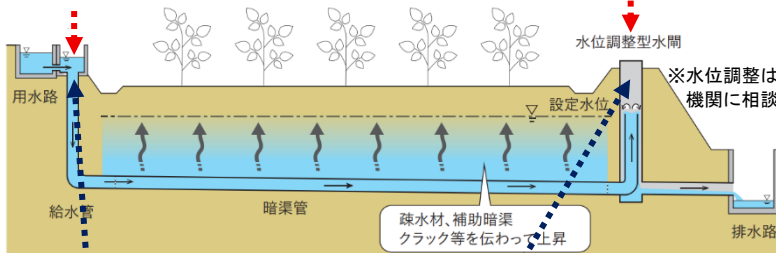


畝間かん水

- ③用水路から水を入れ、給水する。



給水樹



- ④給水後、ほ場全体の畝間が濡れる程度までかん水する。
(半日から1日程度かかる場合が)

- ⑤給水を止め、暗渠排水の水閘の栓を開け、排水する。併せて、周囲明渠の落水口の堰き止めを開放する。

□ 地下かんがいの利用

- ・ 給水、排水の手順（①～⑤）により、畝間が濡れる程度までかん水する。

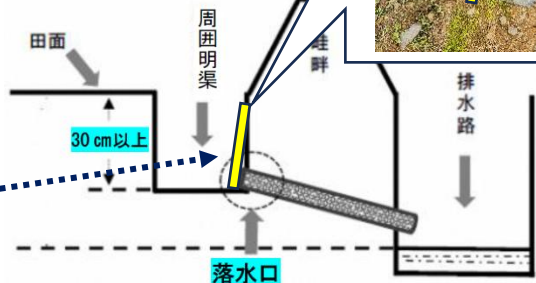
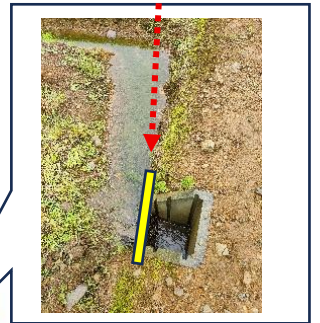


- ①暗渠排水の

水位調整型水閘の栓を締める。

- ②

周囲明渠の落水口から排水路に水が漏れないように堰き止める。



溝が埋まった時は修繕を!!

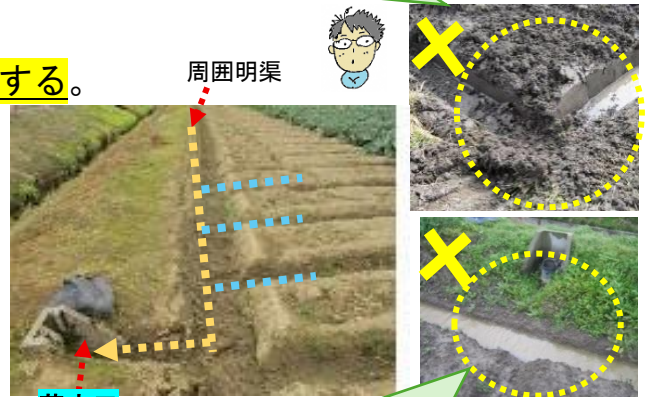
3 排水対策

(1)地表排水

【水の流れを良くするポイント】

- 周囲明渠、畝間と落水口を繋げ、排水を良くする。

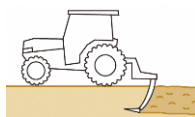
- ・ 明渠は深く (20~40 cm)、深さを均一に掘削
- ・ 田面より、落水口が深いほ場を選ぶ
目安：落差 30 cm以上
- ・ 明渠と落水口を接続する。



周囲明渠と落水口を接続させ、排水させる!!

(2)地下排水

- ・ 土中の耕盤層があるほ場
- ・ 地下かんがいするほ場



【対策】耕盤を破碎する機械（サブソイラ等）を使用

耕盤を破碎し、暗渠の水道ができることで、かん水・排水効果が高まる

